

『露店』というと日本では観光地やお祭りや縁日で屋台が並ぶイメージですが、東南アジアの多くの国では炎天下にもかかわらず普段から日常の食事や品々が道路の上で提供されています。

現在のカンボジアに多く見られる縫製工場の前にも出勤、休憩、退勤時間になると多くの露店が並び、労働者の助けとなっています。この縫製については日本向けの製品も多く作られており、紳士服の青木やユニクロなどにもカンボジア製が多いのはよく知られています。



ソヴァンさんは娘さん2人とプノンペン西部の郊外にある縫製工場の前で朝昼晩と食事を販売しています。こうした食事の材料や食事を運搬するためのバイクを購入するためのローンを我が家から提供しています。

食事は予めご飯、おかず、漬物などを袋に詰めてお弁当のように用意していて、工場の休憩時間には多くの作業者がソヴァンさんの屋台にも殺到していますが、手際よく売りさばいていきます。1セット500リエル（約180円）で他に焼いた川魚やアジなどもありました。



工場の休憩時間は民族大移動のよう



あつと言う間に屋台のまわりに
人だかり

休憩時間の15分前くらいに何人かの女性たちが先に工場から退出ってきており、みんな一様にお腹が大きかったので、これはもしかして・・・と門番さんに聞いてみたら、子供がお腹にいる女性は混雑を避けるために先に退出できるということでした。意外と言っては失礼ですが、最近の工場ではしっかり福利厚生にも取り組んでいるということですね。

ソヴァンさんのように暑い中お弁当を届けて労働者を支える個人事業者や、工場で働く方たちにもローンの利用者は沢山います。生活が安定してよりよい生活を手に入れるための助けになればと思います。